

## 令和7年度東京都住宅防火対策推進会議（第1回）開催結果

### 1 開催日時

令和7年11月7日（金） 10時00分から12時00分まで

### 2 開催場所

東京消防庁芝消防署 4階会議室（東京都港区東新橋二丁目13番7号）

### 3 出席者（※下線：リモート参加）

#### (1) 委員（敬称省略、順不動）

水野 雅之、加藤 大和、小川 和江、舟山 仁一、志賀 明、光田 毅、  
吉成 武男、宮崎 静子、北芝 智捺、門田 彩、萩原 幸太郎

（計11名）

#### (2) 東京消防庁関係者

防災部長（主宰者）、参事兼防災安全課長、事務局（防災安全課）

### 4 議事

消火器による初期消火率の向上方策について

### 5 配布資料

- (1) 令和7年度東京都住宅防火対策推進会議委員名簿……………資料1
- (2) 席次表……………資料2
- (3) 令和7年度東京都住宅防火対策推進会議運営要綱……………資料3
- (4) 推進会議資料……………資料4

### 6 議事

別紙のとおり

## 別紙

### (1) 令和6年度のテーマについて及び近年の住宅火災の現況と消火器の使用状況等について 事務局より、資料1ページから12ページまで説明された。

○主宰者 近年の東京消防庁における住宅火災の現況と消火器の使用状況というところで事務局から説明をさせていただきました。資料の内容について不明な点がございましたらご質問ください。

○委員 11ページの住宅火災で初期消火を行った割合ということで、失敗も含めると6割近くを初期消火されていたということですよ。以前、東京消防庁の資料が忘れましたが、火災において初期消火を行わなかったというのが7割ぐらいあったような記憶があるのですが、住宅火災においてはこういう結果だということでしょうか？一般の建物全体として見ると、初期消火が行われなかったことがあって、ただ2割ぐらい初期消火を行うと、逆に成功率は7割ぐらいになったというものがあつたように記憶しておりまして、私どもは住宅防火の会議などではそういった話をさせていただいておるのですけれども。その辺についてはどういったことかをお聞きしたかったのですが。

○事務局 こちらの引用が右下に書いてあるのですけれども、東京消防庁管内の住宅火災・放火火災の実態という統計データから取ってしまして、そこから取ると、左側の赤枠の中を見ていただくと、約59.7%が初期消火をされていて、そのうちの22.5%が失敗していると。それとはまた別に、22.8%が初期消火されていないという数字になっております。なので、こちら側では、5年の数字としては正しい数字となります。

○委員 住宅火災の増加の要因が電気火災というご説明があつたんですけれども、具体的にどういったタイプの火災なのか。最近の傾向で言えるものがあるならば、例えばリチウムイオンバッテリーからの出火が増えているとか、そういった例がもしあればご紹介いただければと思います。

○事務局 令和7年9月末現在での火災でいきますと、住宅、事業所等の別はないので、すべての火災件数で捉えていただければと思いますが、電気設備機器関連の火災が、9月末現在で1,445件起きております。これを令和6年の9月末現在と比較した時に、令和6年の9月末で1,283件発生しておりますので、その差が今年度の増加分と見ることはできると思います。

電気設備機器の火災にどういったものがあるかということなのですが、充電式電池の火災、あるいは、差し込みプラグの火災、あとは電子レンジ、こういったところが上位3位に入ってくるような火災の分析でございます。以上です。

○委員 リチウムイオンバッテリーの火災が最近すごく多くなっているのですけれども、家庭ではどうなのでしょう？

○事務局 リチウムイオン電池、いわゆるモバイルバッテリー等、そういったものに関連する住宅火災は、平成 29 年の時は 1 年間で約 20 件程度だったものが、昨年、令和 6 年については 106 件、約 5 倍近く増えている状況でございます。

## (2) 消火器による初期消火率の向上方策について

事務局より、資料 13 ページから 20 ページまで説明された。

○委員 ここ 10 年ぐらいを見ますと、消火器全体は 550 万から 600 万本ぐらい、ここ 10 年の中で生産されているのですが、住宅用消火器については、40 万から 50 万本ぐらいで、ずっと増えも減りもしないような、ある一定の固定されたところに入っている。特に多いのは、たぶん東京で、マンションとかそういった 45 消令の関係で各個室に入るというのと、都営で住宅用消火器を全戸に入れていただいています。そういったものが非常に大きいのではないかとことがあります。

住宅用消火器をつくるに当たって、ユニバーサルデザインということで、いろいろなアンケートを取って、今の形のものででき上がった。その当時、住警器が義務化されるということがあって、住宅用消火器も義務化できないかというお話をしたらしいが、その当時は、住警器は火災をいち早く発見して、命を守るために逃げるといった目的が一番になる。消火をするということになると、消火の判断を一般の方ができるかどうかということで、もちろん、初期消火というのは大切で有効だということはあるのですが、命を守るのと逃げるのはどっちが大事かみたいなことで、なかなか義務化は難しいのではないかとという話で、義務化にはならなかったということなのですね。

今回、消していただくということは確かに重要なことだと思うので、我々もどうやったら消火器を持っている方が使っていただけるか。この間、著名人のご自宅で火災がありました、あそこに消火器があったかどうかはわかりませんが、いろいろな報道を見ていると、119 番通報もできなかったわけですね。ですから、火災の場合はパニックになる人が多くて、不奏効の事例の中にありましたけれども、うまく使えなかったということがあります。我々としては、例えば天ぷら油の火災とか、ストーブで洗濯物を乾かしていて、それから火が出た場合、どの程度の火だったら消せるのかというような動画をつくって、ホームページとかいろいろな講演会みたいなところで活用したらいいのではないかとという話が出たのですが、そういうことを進めるのと、命というものの境が非常に難しいのではないかとという話がありました。結論はまだ出ていないのですが、そういったことを周知していかないと、なかなかそういったものは難しいのかなと思っております。

○事務局 ありがとうございます。消火器の普及については、最初の現状についての説明の中で普及率が出てきていたかと思えます。これは令和 5 年と令和 6 年を比較すると、少しずつ上がってきている状況もございますので、引き続き、昨年度のテーマで検討した内容も含めて、普及啓発事業については強化して防災部としてやっていきたいと思っております。以上です。

○委員 普及で言うと、たまたま 9 月にスクリーニング調査というものを全国で行いました。ま

だ、これは公表されていませんけれども。一応、2,000 件の有効モニタリングをするということで、最終的には 24,830 戸の方にアンケートを取って、戸建て住宅は有効戸数が 1,100 戸、共同住宅が 900 戸を取りましようということでやった結果、一応、消火器のある住宅が、戸建てでは 35.7%、共同住宅では 49.9%。推定値ですけども、そういった結果が出ました。東京都の場合はエアゾールも入っておりますので、私どもの調査はエアゾールを入れていないものですから、若干違うと思うのですが、東京都さんのほうがちょっと多いのかなという気がしております。

○委員 住宅用だったら利き腕をレバーにすれば当てやすいので、もしかしたら、そういうアナウンスをすれば効果はあるのではないかなと。不奏効の事例が 15.9%はわかる。やったけど、うまくいかなかったというパターン。住宅用消火器は、時間はある程度あるので、ゆっくり標的に向かえば。使う時は右手でレバーを握ってくださいとか言ってあげると、もう少し確立は上がるのではないかなと思います。

もう一つは、たくさん消火器を使っていますけれども、自宅で使った後の片づけをどうしたらいいのかなと。正直、そこが怖いというのもあって、一瞬迷うかな。自分も火事が起きた時、汚れるかな、水かなと、たぶん迷う。妻も迷うかもしれない。その後の片づけも、こうすれば問題ないのだよとセットで言ってあげれば。やるまでその後がもうわからない。その後の消火器はどうしたらいいのだということもあるので、火災を発見して、使って、片づけて、終わったところでどうしたらいいのまでのセットを見たい。火事になっても、これだけやれば大丈夫だというよな。火事になっちゃって、こんな損害なるのは、どっちかというのをもっと比較してあげれば。今だと、火災が起きて消しました。終わりと。特にエアゾール式簡易消火具の捨て方がわからないという問い合わせがくる。あれも結構手軽に使えるものだと思うので。東京都の捨て方ははっきりわかっていると思うので、そのまま缶で捨てるのか、穴を開けるのか、そこもセットで、火事が起きて、消火して、片づけて、使ったものはこうやって捨てればいいのだよというストーリーを 1 個つくって、一方で、損害が起きてしまったものはこんなにマイナスになってしまうのだよと。じゃあ、こっちにしたほうがいいねというようなストーリーがあってもいいかなと思います。

○事務局 ご意見ありがとうございます。消火器を利き手で持ったほうが操作をしやすいのではないかとということで、新しい視点のアドバイス、ありがとうございます。今後の我々の防災訓練等の指導でも生かしていきたいと思っております。

あと、片づけのところなのですけども、やはり廃棄とか、回収のリサイクルのところは、アナウンスで強化していかなければならない部分だと我々も認識をしておりますので、昨年度から広報ツールでその部分を取り込んで、一体となって、都民の方にご案内するような仕組みをつくったりしています。今後もそこについては強化をして、広報していく予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○委員 補足だけさせてもらおうと、今、僕は住宅用消火器を前提に言ったので、住宅用消火器はホースが付いていないのでレバーだけの操作になります。業務用はたぶん住宅にはあまりないのではないかなと思う。こっちの業務用のほうは、ホースを利き手にしたほうが。要するに、向け

るところに向けたほうがいいので、業務用消火器の時は、右利きの僕はレバーを左手で、右手をホースにすれば当てやすいし、住宅用はレバーしかないなので、右手にすればいいし。スプレー缶は右手で操作。火事だとなって、左手でやってもうまく当たらない。また、距離感がというのもある。住宅用だったら右手、スプレー缶も右手と言わないと。使い分けてもいいかなと思います。

○委員 主婦なので、年に一回、震災訓練があるのですね。共同住宅ですけれども、公園で初期消火とか、毎年、やっているのですね。本当に、何十回とやって、やっぱり、それでわかるのかなと。それでも、実際になると慌てて、どうなるかわからないというのが現状だと思うのです。最初、火事だと言って、周りに火事だと言って、ピンを抜いて、ホースを向けてやるということを、いつもやらせていただいているのですけれども。終わった後は、消防署の方がみんな片づけてくれるので、こっちは何もやらないで。1年に1回か2回は本当に液の入ったものでやるのですけれども、毎年、うちの公園でやる防災の訓練は水なんですね。でも、やり方がわかるということはすごいなと思っています。本当に火事にならないのが一番なのですから、なった時にはどうなるか。でも、やっぱり何十回と体験したほうが、自然に出るのかなと。1回、2回じゃなくて、何回もやるということが大事かなと思っています。

○委員 まず消火器の件ですが、ここのところ、モバイルバッテリーとか、いろいろと火災が起きる。一番皆さんが使う携帯電話、電動自転車など、今、身近に使うものを充電している間に発火する。ですから、東京都町会連合会では、皆さんが普段使っているものが、気を付けないと発火しますよということで、今、啓蒙をしているんです。ですから、初期消火のために小さい消火器でも必ず1台は備えておかねばならないということを。電動自転車や携帯電話は身近で使っているところで、皆さん、すごく感じるんですね。ですから、小さい消火器を1台側に置いておいて、いざとなったらそれを使えということを皆さんには言っています。

それと、大きい消火器ですけれども、中野区では初期消火操法大会というのを毎年実施しています。水の入った消火器で消火訓練をしています。本物の消火器でやっていないからわからない。ぜひ、やってもらいたいという声があり、さっき説明のありました、透明なビニールを使い、粉末消火器を使用してみました。その時に指導してくれた使用法は、ピンポンパンと覚えるということなんですね。ピンをまず取って、持ち上げて、それから握るのかな。ピンポンパンと覚えてやればできますからと。今日、言われたとおり、その時は利き腕で持ちなさいということも今度は皆さんに教えるわけですね。今回の話は、東京都町会連合会でも、消火器の使い方も覚えてくださいということをお話しようかなと思っています。分かりやすいですね、ピンポンパン。それを教わったものですから。そして、消火器を一家に1台は置くということぐらいは。普段使う自転車のバッテリーとか携帯電話で発火する場合もありうることから必ず置きなさいと、今、啓蒙をしています。以上です。

○主宰者 ありがとうございます。今、そういう啓蒙のところで実際に水を出す訓練というところと、今回の事務局案では、シミュレーションでイメージをつくってもらう。ストーリー仕立てにイメージを持ってもらうという合わせ技で普及啓発をしていきたいと思っています。今の両委員からのコメントで事務局は何かありますか。

○事務局 お二人、ご意見ありがとうございます。やはり、水の消火器を使って、何回も何回も公園で訓練をされているということで、水の消火器であっても何度も繰り返して訓練をすれば、技量としては上がっていくと思います。今、画面に映しているとおり、一部の区市と連携をして、実際の粉末の消火器を出す。それを都民の方にやっていただく。周りの方に見ていただく。そうすると、本物の消火器というのは、こういうふうに出るのだとかイメージが付くと。そういったイメージを持っていただくと、いざという時に躊躇なく使っていただけのことにつながるのではないかと考えていまして、今後も、この事業についてはやっていきたいと考えております。

また、身近にモバイルバッテリーや携帯電話機、その他にも電動自転車とかワイヤレスのイヤホンがあったり、ノートパソコンがあったり、いろいろリチウムイオン電池関連製品はございます。そういったところの火災も増えてきておりますので、消火方法や消火後の措置についても、現在、広報物を制作中でして、今後、都民の方にアナウンスをしていきたいと思っております。以上です。

○委員 日頃から、火災発生時に電力が近くにある時に連絡をいただいて、一緒に対応いただきまして大変お世話になっております。今日は貴重な機会をありがとうございます。ちょっと違った視点で意見を言わせていただきますけれども。私も普段から防災、地震とか津波とか、今だと火山噴火とかをやっているのですけれども、今年、すごく国、内閣府から報告書も出ていて、今、まさに公助ではなく自助でやる時代だということで、非常にそういうキーワードが出ている中なので、この話もまったく同じかなと聞いておりました。もちろん、ここに出ている案はこれで進めるべきだと思うのですけれども、特に③のところなのですけれども、PR のところ。もちろん、火災単独でPR もいいと思うのですけれども、もう国民一人ひとりが自助で、自分で防災をやっていくという時代なので、例えば、地震の家具の転倒防止もそうですし、消火器を持っていないこと自体がかなり自助というところでは遅れていると思いますので、防災全体で、消火器を持って消火の初動をやっていくところも、防災全体の中にぜひ入れていただいて。例えば、内閣府の報告書、地震なんかだと感震ブレーカーは付けなさいというのがもう出ているのですけれども。感震ブレーカーも通電火災を防ぐには大事な話です。ただ、手前の消火器を持つ、消火器で初動をするというところがまだ不足しているという実態なのであれば、まずそこからなのではないかと思しますので、他の防災と連携して、この話も、ぜひ、そこに組み入れて、家具の転倒防止もするし、消火器も持つし、という切り口で、全体で防災を高めていくということができればなと感じました。

あと、もう一つは、たまたま私の自治体では、一家に1台、消火器を配っており、期限が来たら、消防署に行けば交換していただける。こういった取り組みは、もう、東京都内でもされているのか、実態を教えてくださいなと思います。

○事務局 ありがとうございます。先ほどございました感震ブレーカーとか、そこも踏まえて、消火器についても設置促進していかなければならないということで、東京消防庁の防災部全体で課題認識を持って、現在、取り組んでいるところになります。

東京都さんの地域防災計画でも、やはり目標値が定められております。その数字も見ながら、

今後、そこについては継続的にやっていきたいと思っております。

○事務局 区市のほうのところですけども、今年度、補助事業をやっている区さんが一部ございまして、補助金を出して、区民の皆様に消火器を持っていただきたいということで、報道もされておりますけれども。その区さんと情報交換をしながら、やっているということは東京消防庁のほうにも情報は入っております。一部の区では実施していると聞いております。以上です。

○主宰者 特別区の中でも、どこまで区民の皆さんに補助をするかというのは、ご案内のとおり、まちまちで、なかなか踏み込めていない行政もあると聞いています。本当に家具転の器材だったり、初期消火の消火器だったりというところでは、さまざまな差が出ているのは確かかなというところで、なかなか一律に補助ができるところまでは行けていないのが現状だと思います。ありがとうございます。

○委員 学生からの視点として、少し意見をさせていただきます。私自身も学生ですが、そもそも消火器の使用の仕方は、幼稚園とか小学校の時に一度やった程度で、実際に使ったことがないという友達のほうがたくさんいて、今、そちらに置いてあるエアゾールの消火具があるというのも、私が無知なだけかもしれないのですけれども、初めてこの場で見させていただいた。実際に消火器を買うに当たって、ホームセンター等と先ほど資料で読ませていただいたのですけれども、家の近くにホームセンターが必ずしもあるわけではなく、どちらかと言ったらドラッグストアとかのほう結構親しみがあって買いやすいという点もあります。学生がお買い物とかしやすいと思うのはドラッグストアとか、大きなスーパーとかのほう、ホームセンターよりも行く回数が多いので、学生から見ても、身近に買いやすいような位置に置いてあることで、実際に初期消火につながる可能性があるのかなと少し思いました。

○事務局 ありがとうございます。皆様が買い物をしやすいところに消火器が売られているといいのではないかとということで、貴重なご意見ありがとうございます。幼稚園とか、小さい頃からの教育は非常に大事だと思っております。幼少期からの防災教育というのは、やはりやっていかなければならないというところで、総合防災教育という名称で防災部としても少しずつ進めている状況でございます。小さい頃に習った動きとかは大人になっても覚えているということがあるのかなと思いますので、そこについても力を入れて、今後、やっていきたいと思っております。以上です。

○委員 今、普及啓発広報物を制作されているというところで、つくっていただいたものは、それをどう見ていただくかというところが非常に大事になってくるかなと思っております。一つ目の初期消火の有り、無しの広報物は、おそらく動画のイメージかなと思うのですけれども、こちらは「完全に火が出ました、それを消火器で消しました」だけだと、「それはそうだね」というような状態になってしまうかなと思います。なので、先ほどから皆さんからも出ている、モバイルバッテリーから火が出た時に、どの程度の火で消火器を使うべきかみたいなところや、そもそもモバイルバッテリーに消火器を使っていいのだろうかとか、火にかけていいのだろうかみたいな、

おそらく、皆さん、そんなに消火の知識がないので、その心配からあるのかなと思います。例えば、モバイルバッテリーから火が出た。どうする？みたいな感じで、実際に火が出たところを消火して。先ほど、消火器を使った後、どう処理をする、きれいにするのかというところは、確かに、私も使って、でも、汚くなるしなあという迷いみたいなものも出たりするのかなと思うので、そういうところも含めて、動画にして発信していくと、そういった動画というのは、おそらくあまり今まで見たことがないかなと思うので、そういったところで興味を引き付けるというのはいいのではないかなと思います。

○事務局　ありがとうございます。今、おっしゃっていただいたように、確かに火が出て、消すだけの単純な動画だと、見ていただく皆様に興味を持っていただけないという視点もございますので、どう構成した動画をつくれれば、皆様に見ていただけるのかというのは、この会議の皆様の意見を踏まえて構成を考えていきたいと思っております。

あと、リチウムイオン電池関連の火災については、今年の7月にパンフレットをつくって、当庁のホームページでも皆様にご案内をしております。その中にも、消火器を使ってくださいと書いてございます。リチウムイオン電池については、水とか消火器で消してくださいとアナウンスをさせていただいてまして、今後はパンフレットだけではなく、他の広報物についても制作していきたいと考えておりますので、その際はよろしくお願いいたします。以上です。

○主宰者　中身のところと、実際に広報物を見てもらうのに辿り着いてもらうまでというのは、どんな工夫をしていったらいいのでしょうか？おっしゃっていただいたように、つくったはいいけれども、その中身を見てみたいと思わせたり、そういうのを探しやすい場所に置く、そもそも、そういう広報物に辿り着いてほしいと思うし、辿り着いたら、次に、ちょっと中身を見てみたいと思わせるにはどうしたらいいというアドバイスはございますか？

○委員　動画は本当にたくさんあるので、皆さんはそんなにしっかりは見てくださらないので、本当に最初の6秒ぐらいでどう心を掴むかというところがすごく大事なので、そこにちょっと大袈裟なインパクトを付けたり、そういうところも多いです。先ほどちょっとお話ししたような、モバイルバッテリー、発火したらどうする？みたいなことを最初にボンと出すと。やはり、皆さん、その心配をどこかでしている方が多いのではないかなと思うので、そこでインパクトを持たせるというのは、一つ、方法としてはあるかなと思っています。

あと、これはお金がかかってきますけれども、YouTubeの広告も少し回してみるみたいなことをすると、再生回数が上がって来るので、広告にあった属性の方に表示されやすくなったりということもあるので、予算次第ではあるかなと思うのですけれども、そういったYouTubeの広告を使うという方法は、一つ、あるかなと思います。

あと、報道機関とタグを組むみたいなのがあったかと思うのですけれども、モバイルバッテリーの発火みたいなのは、報道機関でも取り上げられたりしているかなと思うので、そういったものを紹介いただいて、「詳しくは東京消防庁のYouTubeに出ていますよ」みたいな誘導をしてもらうとか、そういった方法も有りかなと思います。



○主宰者　そもそも初期消火の行動を上げていきたいというのが本来の目的だったのですけれども、やはり、見てもらうためには、例えば、タイトル出しのところも、初期消火がどうのみたいな話よりは、今、社会的に関心のある、例えばモバイルバッテリーの火災にはどう備えたらいいかみたいな、そっちを取ったほうが、やはり拾ってもらいやすいというところですかね。

○委員　伝えたいところを前面に出していくよりは、皆さんが興味を持たれるのはどこなのかというところを入口にして、伝えたい方向に持っていくというのがいいかなと。あとは、とにかく短くというところがポイントかなと思っています。YouTube の動画だと、今はショート動画のほうに皆さんに見られやすくなっているので、いわゆる横型の動画ではなく、縦型の動画で、3分以内がショート動画の時間数制限になっているので、長くても3分以内。いつもお勧めしているのは、とにかく15秒以内。15秒以内が広告を回すにしてもいい時間になっているので、それぐらいで伝えられるようなことを伝えていくといいとアドバイスさせていただいています。

○事務局　ありがとうございます。今、3分、15秒、あと、6秒と、いろいろ時間が出てきましたけれども、今年度、動画をつくっていく事業もございまして、その辺りの時間の長さというところも意識してつくっていかうと考えました。ありがとうございます。

○委員　初期消火率向上、消火器をどうやって置いてもらうか、使ってもらうかということがメインテーマになっていると思うのです。たぶん、皆さん、ほぼプロ側なので、ほとんどの人が対局にいると思うのです。消防のことなど考えたこともない人の視点でちょっと、我々も、そういう人たちに情報を伝えようとしているので、考えてみました。

現状の課題意識としてですけれども、私は解説委員をやっていますけれども、普段は首都圏局というところでニュースを担当しています。いろいろなニュースがある中で、どうしても、今回、ターゲットとしているようなところのニュースというのはお伝えしづらいところがあります。

初期消火という考え方は昔からずっとあって、私が記者になった2002年の時の最初の企画も初期消火をどうやってやるかみたいな企画だったので、25年ぐらい前から話題にはなっているけれども、こうやって議論しているということは、考え方の必要性はわかっているのだけれども、社会のシステムとして根付いていないのではないかと感じます。それから、初期消火の有用性とか有効性というものが十分に認識されていない。消防側がわかってほしいということは認識されていない。そもそも、消火器が設置されているのは半分弱ということでしたけれども、これも必要性が認識されていないのだろう。あるいは、自分のこととして必要なものなのだと腑に落ちていないのではないかと思います。これだけ物価高だ、教育に金がかかるんだ、いろいろなお金の使い方がある中で、優先順位が高くないのだろうということがああると思います。

主な要因を考えると、一つは、自分事にできていない。自分のところに火事なんて起きないだろうという。モバイルバッテリーの人なんか、インタビューをすると、大体、「自分のが燃えるなんて」と話をしていると思うのですけれども。自分事に感じられないという正常性バイアスみたいなものが必ず皆さんにある。

それから、消火器を使うという機会、消火器を購入するという機会がない。

また、心理的負担。「まずは付けなきゃいけないのか」みたいなことを考えることがあまりない。

日常生活の延長線上に火災予防という考え方はあまりないのだと思っています。地震ですらないのだから、火災なんかないだろうと。普通、逆なのですけれども。一般の人は、これだけ地震があるのだから地震に備えなければと思うのですけれども。備蓄したりとかするのですけれども。そこに火災というもうワンアクションが入ってきていない。

先ほど、志賀さんがおっしゃっていたのはすごく大事な視点だと思います。後片付けが大変。消火器のことをネットでちょっと調べると、メリット、デメリットがあって、後片付けが大変と書いてあるんです。そうしたら、あの三つのどれを使えばいいのか、どれを買えばいいのか、どこに置けばいいのか、どのタイミングになったら消せばいいのかというようなことがわかる人はほぼいないんじゃないかな。

舟山さんがおっしゃっていましたね。消し止めるというのは、結構ハードルが高い行為なのだと。そこをまず認識することが大事なんじゃないかと思いました。

それから、訓練の形骸化。ただ水で消せばいいと。実はそこにヒントがあって、利き手でやなくては大めだと。僕はずっと右手で。右手でレバーを握るという感じがあるから、右手でびゅーっとやっていてうまくいったつもりになっていましたけれども。でも、家に置くのはたぶんホースが付いていない緑色のやつなのですよ、本当はね。でも、うちのマンションの訓練は、いつもホースが付いているやつを近くの消防署の人が持ってきてくれて、やってみようとするのですけれども。それを右手で握って左手で消しちゃダメなのだから、どっちで握るかわからなくなってくるような……。右利きの人は赤は左手で握って、青は右手で握るんですよ。これはハードルが高いと思いました。

あと、成功事例がなかなか見えにくいということ。これは報道機関の問題もあるかもしれませんが、それはすごく感じます。

あとは、これは防災全般に言えることだと思いますけれども、意識という言葉で片づけがちなのではないかと。我々も、よくキャスターが、「私たち一人ひとりも意識しなければいけません」と言うのですけれども、私たち一人ひとりって誰なんだっけとか、何を意識するのだっけとか、何で意識しなければいけないのだっけというところに目が行かない。「意識しなさいよ」と言われるのだけれども、「わかってはいるのだけど、どうもなかなか行動にはなあ」というところに至らないのではないかと。避難とかもそうですけれどもね。というふうに思いました。

それで、どういうふうにしたら、そういったものが改善できるかということを四つの視点で考えてみました。私が、ぱっと考えたのが、教育、経済、技術、社会の四つの視点で見ました。

まず、教育という意味で言うと、リアルな体験と共感が大事だろうと。自分事にどうやって感じてもらえるか。学校で言うならば、授業の中に盛り込んでみるとか。学校に消防署の人が来てもらおうと、一人、二人の代表がやって終わりじゃないですか。写生大会とかでよく消防署に行くのだから、消防署に消火器を置いておいて、写生大会と防災教育をセットにして、例えば、絵を描き終わったやつからびゅーっとやらせるとか。それから、できるかどうかわかりませんが、VRの訓練とかも一緒にやってみてもらうとか。

あと、成功した事例とか失敗した事例というのは、そういったところで教育的にやっていく。これは消防署などに来れば見られますよというアナウンスがあってもいいと思います。

経済面ですけれども、消火器を購入するというハードルを下げてあげる。経済心理的なアプローチが要るのじゃないかなと。さっき、すごく重要な情報だなと思って聞いていたのは、初期消

火が成功しないと損害額が3,500万。成功すると1,300万で済む。確か15㎡と5.9㎡。これをどう見たらいいのかというのがわかりにくいかなと思うので、例えば、損害とか効果を代表例にします。よく、電気代が上がりますと言うと、代表的な、一般的な4人の家庭で月500円とか言われると、「ああ、そうか」と思うのです。2LDKの50㎡のマンションだとかどうか、1LDKだったら、もう25分の15だったらほぼ全焼とか、そういうふうなわかりやすさが無いと・・・。15㎡とか5.9㎡だとか、よくわからなかったりする。

あと、関係者の方には言い方が申し訳ないですが、デザインがダサくないですか？わかりやすいのだけれども、ダサいので。もうちょっと手に取りやすいデザインと一緒に共同研究するとか。人気のデザイナーがデザインしたやつとか、何か付いているとか、わからないですけれども、そういうふうに変えてみるとか。あと、スーパーマリオがお化けを吸っていくゲームがあるのですけれども、あれの逆バージョンみたいに、吐いていくみたいなゲームも一緒に開発するとか。そういう、今までとは違ったアプローチも、遊びの感覚で検討されてみたらどうかと思いました。

技術面ですけれども、安全で簡単だということがキーワードになると思うのです。触る機会が少ないのだったら、いかに簡単にできるか。あるいは、自動化できるか。目が見えない人でも料理をしたりすることがあって、そういう人たちがすぐ消せるようにと、自動でびゅーっと出てくるやつがあるのですね。例えば、エライドファイヤーボール、初めて知ったのですけれども、ボールを投げ込めばいいというのが海外で結構売っていて。ちょっと高いのだけれども、それを投げれば、とりあえずいいと。あと、シートを被せればいいのか。いろいろな商品があると思うので、そういったものをもう少し広げていけるといいのではないかなと思います。たぶん、単純に消すということ。技術的に、どこになったら消してはいけないということも大事なのではないかと思いました。

それから、最後ですけれども、社会という面で言うと、ユーザーの視点側で考えないと、こちら側がこうしてほしいということではなく、ユーザー側の困り事から。何で買わないのかなとか。さっき言った、何で使わないのかなということの分析もしなければならぬ。やっぱり、片づけ大変というのは、プロから見れば、そんなことは言っていられないだろうと思うけれども、一般の家庭料理をする人にしたら、僕なんかが使ってびちょびちょになって、「いや、危なかったのだよ、今日は」とか言ったら、「あなた良かったわね、今日は消せたじゃない」とは絶対ならなくて、妻からは、「何しているの！」と絶対怒られると思うのですよ。そういうことがないように、どうすればいいかということを考える。どういう時に使ったらいいのか、使ってはいけないのかということ。逆に、逃げてもいいというタイミングはどういう時なのだというのも合わせて発信していくことは大事なのではないか。消さなきゃいけないというのは、結構・・・。消さなきゃいけないということでパニックになるんじゃないかと思うので、そういった心理的なハードルを下げることも大事なんじゃないかなと。

それから、あとは、必要性をちゃんと訴えるという意味で言うと、消防の限界。自治体消防の限界という意味で言うと、例えば、他で火事があったら、そんなコンロの火事是对応できません。場合によっては、時間によっては、「時間かかるよ」、「間に合わないよ」、「あなたの家、せっかく買ったのに、到着に時間がかかるので、初期消火をやっておかないと一部焼損で済むのが全焼になるよ」みたいな、そういうことを何か事例として一緒にできないかなと思ったりはしました。

他の行政機関等との連携強化というのは、前から言われていると思うのですけれども、例えば、やかんの事故とかストーブの事故で、消費者庁系のNITEというところが動画を出したり。定期的に、大体、彼らは報道機関に発表して、実験動画と一緒に公表するのですよね。それは、大体、どこの社も取り上げると思うのです。映像が興味深いので。その時に、そういう情報を、例えば事前にもらえていたら、「だから、初期消火」みたいな。いくつかそういうものを用意しておいて、DS出したなと思ったら、合わせて配りますと投げ込んでおく・・・。NITEは、大体、「気を付けてくださいね」で終わりなんです。我々は、どうすればいいかまで伝えたいと思うから、その時に消防庁さんのほうから、「ありませ」となったら「よっしゃ」と言って、もう1本追加して、それを入れようと思うので、そういういやらしさ、連携をしてもいいかなと思います。

あと、火災のニュースを出す時に、我々、問い合わせをさせていただくのですけれども、これは警察さんとも協力していただけたらと思うのですけれども。例えば、初期消火をしていたのか、していなかったのかという情報も合わせていただけると、今回、家が燃えた。初期消火はしていなかったということですと言えば、そういう報道が増えれば、「ああ、初期消火していたらよかったのかな」とか。「ぼやの時に初期消火をしていたので大丈夫だったということです」という情報も合わせて言えればと思うので、そういうのは、なかなか現場でアナウンスをするのは難しいと思うのですけれども、我々も聞かせたいと思いますけれども、積極的に広報をしていただければと思いました。

あと、いくら動画をつくっても、僕は逆に見ないと思います。見ないというのは、見る気にならないと見ない。夏のくそ暑い時にダウンジャケットなんか買わないじゃないですか。寒くなった時におでんを買いたくなるのと一緒で、その時にベストなタイミングでアプローチをしないと動画は回らないと思うし、逆に言ったら、取り組む意味がないというか、効果が半減どころか3分の1以下になってしまうと思うので。例えばですけれども、家を買った時、「あなたの大事な家を買ってすぐに燃えたらいやだね」と言って、一緒に合わせてチラシを撒けないとか。例えば、ローンを組む時にローン会社さんから撒いてもらうとか、あるいは、自治体の住民課、市民課とかに置いてもらって、引っ越しをした時は、賃貸の人とかも住民登録をするので、その時に一緒に配ってもらって、一家に1台置いてくださいよとか、そういったことでリスクが防げますよとか、そういうタイミングというものを・・・。ちょっと今はジャストアイデアでお伝えしているので、それがいいとは思いませんけれども。こちらが備えたいなとか、そういうことを考えたいなというタイミングから逆算をしていて、何ができるかということを検討するということのほうが大事じゃないかなと思いました。長くなりましたが、以上です。

○事務局　たくさんのご意見、ありがとうございます。やはり、我々もつくった動画を見ていただきたいというのは、当然、思っていることで、それをどう報道機関の方や広報関係者の方に扱っていただけるかというところは、常に考えているところでございます。ですので、大きな火災が発生した時、あるいは、人がお亡くなりになった時、その他、社会的関心が高いような火災が起きた時に、「こういった動画がありますよ」というところを合わせて報道機関の方や広報の関係者の方に情報提供や公表などを行って、火災のニュースと合わせて情報発信をやっていきたいと思っております。

それと、都民の方の目線。こちらもありがとうございます。消防の側から見ていただけでは、

使ってもらう方がどう考えて、どう動いていただけるかというのは、やはり不足する部分だと思いますので、先ほど、何点かお聞きしましたが、都民の方に今まで取ったアンケートなども見ながら、どうやって広報をしていったらいいかを考えていきたいと思っております。四つの視点もありがとうございます。参考にさせていただきます。以上です。

○庁内出席者 たくさんのご意見ありがとうございます。ここにいる方々は、どちらかと言うと消防側、味方になってくださる方が多いというところがございますので、やはり、対局にいる方とか、年齢によっても見るものが違ってきたりするところもあると思いますので、ご意見をいただきながら、いろいろな視点を持って対応していきたいと思っております。どうもありがとうございます。

○委員 今、本当にモバイルバッテリーがすごく時代的にも問題になっておりますので、結局、そういうことに関して、家庭でどうしても消火器が必要じゃないかということも、時代の流れで流せていけるのではないかと考えております。やはり、パンフレットとかチラシよりも動画のほうがわかりやすいし、そういう面で、両面からやっていけたらいいかなと思っています。

それと、使用済みのモバイルバッテリーはどこに出したらいいのでしょうか。不燃ごみとか、そういうもので扱ってなくて、私が住んでいる区なのですけれども、モバイルバッテリーの使用済みは地域センターの一つしか扱っていないのですね。結局、モバイルバッテリーの使用済みはそこだけではなく、最後まで、こういうところに捨てるのだよとか、合わせて教えていただいたほうがいいかなと思っています。最近まで私は知らなかったのですけれども、みんながそこまでいろいろなことを言うのですけれども、じゃあ、それをどこに捨てたらいいかという問題をどなたか言っていて。皆様の区でいかがでしょうか？そういうことに興味を持って、最後まで流れとして知っていただければいいかなと思います。以上です。

○事務局 動画と紙面のパンフレットなど、両面の視点で今後は進めていきます。

廃棄の方法については、わかりづらい部分もありますし、区市町村によっても違いますし、これから動きが出てきて変わっていく部分もあると思いますので、その辺りを整理しながら、皆さんがわかりやすいようにやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

○委員 消火器をご存知ない方は、まだ、たくさんおるのですが、私はリサイクルをしております、始めてから既に15年ほど経っております。世界に類のないリサイクルシステムなのですが、不法投棄と事故防止という観点から始めた事業です。コマーシャルのやり方等いろいろありまして、当然、インターネットとかの環境ができない方もおいでになられますので、今月から、全国紙1社とYahoo!とLINEを使ったアンケートを、ピンポイントでやるという。それと、今年からはYouTubeも作成しまして、15秒の動画が3本、1分30秒の動画が1本、これを約2カ月。当面、2カ月ぐらいの期間なのですが、どういったものが効率的かという検証をしまして、よければ、もっとそういったものをやっていくということです。1月ぐらいになるとデータの検証もできますので、これは私ども、あくまでもリサイクルを前提とした関心度の高い方がどのような方かという。若者向けにもということで、今回、YouTubeだと思ってそうしたのですけれども。そう

いったものが出ましたら、次回にでも、こういった会合には、こういったものが有効でしたというお話もできるかと思いますので、ぜひ、役立てていただければと思っております。以上です

○委員 若者は基本的に最近テレビをあまり見ない、テレビ離れということが多く見受けられまして、そもそも一人暮らしのうちの中にテレビを置いていないという人たちも多くいまして、YouTube がメインとか、アマゾンプライムとか、Netflixとか、そういう動画サイト系もそうですし、スマートフォンとかですと、YouTube 以外でも、最近ですと TikTok とかInstagramの DM 機能、YouTube ショートみたいな機能と同じような感じでして、大学生とか、その下の高校生、中学生なども YouTube もそうだけど、最近流行りとかの TikTok から来ていたりするので、TikTok とかInstagramとかの、ちょっと視点が若者世代になってしまうのですけれども、そこら辺からアプローチとかもすると、今、大学生とか高校生の人たち、あまり火災の意識がない子たちも少しは興味を持てるのかなと少し思いました。

○事務局 今、おっしゃられましたサブスクの動画とかですね。あと、各種の SNS。こういったところを若い方は大変使われているかと思しますので、若い方に届けたいところの情報は、そういったサイト、ツールを使っていくのは非常に有効だと思いますので、今後はそこも踏まえて検討をさせていただきます。ありがとうございます。

○委員 私どもは一般公開をしまして、実際に天ぷら油火災を消した時に、「これいいね、どこで買うの？」ってなって。行政がどこまでやるかというところもあると思うのですけれども、「どこで買うの？」と思った時にワンクリックで、先ほどおっしゃっていた YouTube か何かに。いいなと思った時にピピッとやって買えるというように。ホームセンターが近くにないのでどうしたらいいのだろうとか、その「どこで買えるの？」をつなげてあげれば、もうちょっといいかなと。その後、買ったかどうかはわかりませんが、見たらいいのはわかるので。汚れたって、別に拭いて元に戻るんで、お金なんてそんなにかけられないし、それで、もし家が燃えたり、命を失うほうが圧倒的に損をしてしまうので。いいのはみんなわかっているんで、その伝え方をもうちょっと買えるまでやれるといいかなとは思いました。

○事務局 どう買っていただくかというところは課題となるかと思いますが、東京消防庁としては、特定の民間の会社さんをご案内してというのはできないので、幅広くインターネットショッピングとか、近くのホームセンターとか、あるいは消防設備取扱店さんとか、そういったご案内しかできないのですけれども。そういったものを入れながら広報については進めている状況ですので、もっと強化していきたいと思っております。ありがとうございます。

○主宰者 さっき防災への意識の優先順位がそもそも低いのではないかと。たぶん、おっしゃるとおりで、我々が地震の震災対策を進めていっても、どうしても明日起こるわけではないとかいうところだったり、自分の家で火事が起こるということを、私も含めて、我が事のように考えていないことがやっぱりあって。お金という視点からいったとしても、お金をどのぐらいかけるかという、どうしても防災への優先順位が低いところがあるかというのは、もう、おっしゃ

るとおりかなと、実感も踏まえてあります。

一方で、こういうものを備えていってもらいたいな。でも、そもそも関心がないところを「見てよ」と言っても、やはりなかなか見てもらえないというところにジレンマがある。そうすると、目立つところに載付けていかないといけないのかと。そもそも見てもらうには、災害が起こった時の直後とかのタイミングを見計らわない限りは、なかなか見てもらえないというのが実態というところを踏まえると、もう常日頃つくっておくとか、報道機関の皆さんに準備していただくように、例えば、初期消火の必要性みたいな情報提供しておくとか、事前の部分でしか準備しておけなくて、見てもらえるというところには、正直、なかなか辿り着くのはむずかしいというのが本質にある。諦めてはいけないのですが、長年のテーマなのですけれども、どうやったら見てもらえる、意識を持ってもらえるのかというところで何かご意見ありますか？

○委員 今のところと言うと、実は、同じ課題を我々も持っていて。先ほどのお話で、テレビを持っていませんと。一時期、ネットの動画とかをいっぱいつくって発信したりもしているのですけれども、ネットは、所詮、一過性なところが一般的には多いですね。

つくっておくというお話がありましたけれども、消防庁さんの圧倒的なアドバンテージは、公的機関だということなんです。気象庁のホームページなんて普段は誰も見ないのに、台風が近づくと1日に何億というアクセス数になるということだから、その時に、みんな頑張っただけでいいホームページを見ている。だから、そういうタイミングが必ずあるはずなので両輪で進めていく。普段から準備はしておいて、例えば年末だったら、これからちょこちょこ火事が相次いで起きたりとか、あるいは火災の取りまとめとか、あるいは調査の結果とかを出されますよね。そういう時に合わせて話題を提供するとか、このサイトもご紹介くださいという案内をしていくとか、そういうふうにしていただくことしかないのだろうなと。

我々も、この夏の暑さとかこの夏の雨のまとめとか、大体、年末とか冬に言うのです。冬のくそ寒い時にこの夏どうだったかとかを、「ニュースで取り上げて」と言っても、「そんなの入らないよ」と言われて、実際、それをリリースしても、あまりアクセスはよくない。そういうタイミングがどうしてもあるので、そこがかなり辛いところではあります。答えになっていないですけれども、そのタイミングが来た時にぱっと出せるように準備をしておくということが大事なのだろうなということと、この問題は本質なので、本質の問題は訴え続けるということをやっているとすることが大事なんじゃないかなと。

話がずれますけれども、警視庁さんに防災をやっているおじさんがいて、そのおじさんが一人で SNS をツイッターの頃からずっと発信していて、今、地震がちょっとあったりすると、あれがすごく回って。この間の関東地震の時もあれがすごく見られたということもあるので、そういうところを緊密に上げていくということも大事なんじゃないかということは感じました。

○委員 今日、この場に来て、昨年度からの続きで消火器ということだったのですけれども、消火器でいいのかというところもあって。もう、自動消火じゃないかと。もちろん、お金もかかりますけれども。10 倍ぐらいですかね。住宅用の、ありますよね。ちょっと大きな感知器みたいなのが、ぶしゅっと出て消火をしてくれるみたいなのが。そういうのも。結局、高齢者の方はどうですかね？消火器で消せるのかというところは。いかがなものですか？

○委員 例えば、老人会のところでも言うのですね。皆さんが、今、携帯も使えます。老人でも、電動自転車に乗る人もいます。普段使っているもの、それが発火しますよということをテレビで放映してくれますよね。みんな不安がるんですよ。それで、「やっぱり消火器が必要なんだよ」と言う、「本当、そうだね。」と。自分の事として考えるようになってきているんですよ、高齢者の方も。それを老人会などに行った時には必ず話をします。だから、それを広報するのが大事です。町会の役員さんたちも高齢化してきます。役員さんもみんな携帯は持っているし、電動自転車に乗る。普段使っているものが危険なものである。充電中に発火するという不安感があるのですよ。それを煽るわけではないけれども、テレビでもそういうことを流しますでしょう。ぱっと燃えたりするのを。ですから、一家に1台、小さいものでいいですから、大きなものは要らない。今は見栄えのいいものもあるのだから、そういうものを買ってください、置いてくださいということを伝えていきます。皆さん、身近に普段使っていますから、自分のことと思ってきているのです。それを言い続けないと、また忘れちゃうので、広報が大事だなと思います。

○委員 そうですね。広報は重要だと思います。それで、その先の自動消火もあるのかなと思っていて。かつての住宅用スプリンクラーですと、工事もなかなか面倒くさい中で、スプレーでぴゅっとやるのが最近は出ているので、そっちもあるのかなと思って聞いておりました。

それから、保険がどういう体制になっているのかを私自身も把握していないのですが、そういう消火器による損害みたいなものをカバーしてくれるのかどうかというところはどうか。要するに、消火器で消せる分には保険で全部きれいになるのだと。そうじゃないと、中途半端なことになると難しくなるよみたいな話が、実際のところはどうかなのかなというのが、今日、お話を伺っていて気になりました。

それと、スプレータイプのものは消火器ではなく、消火器具だと思うのですが、あれでモバイルバッテリーは消せるのですか？モバイルバッテリーを直接消すのが、僕もよくわからないのですが、モバイルバッテリーは中の液さえ全部出しまえばそれで終わりだと思うのですが、周囲に延焼してしまった時に何が有効かという感じなのですかね。そうすると、やはり消火器ぐらいのものがなくて、あれは、たぶん天ぷら油のところにぴゅーっとかけると、膜を張ってくれて消せるという代物ですかね。消火器具のスプレーは。あれは一般火災に有効なのですか？

○委員 はい。小規模な火災があると思うのですが、2㎡ぐらいは消せます。1㎡から2㎡の面積ぐらいは消せるものです。

○委員 エアゾールは、アルカリ強化液を使っておりますけれども、一般的な天ぷら油でしたら1秒ぐらいで消えます。

○委員 それと、消火器なのですが、火災に気付かないと消火器は使えませんので、住警器というのを今一度セットで広報したほうがいいんじゃないかなと。スライド10の2019年に死者数がちょっと増えているのは、これは何なのかということと、それと同じぐらい、令和6年が



そうってしまったというところの分析は、私も含めてやらなければいけないなと思いました。  
住警器は下がってきていますかね？

○主宰者 東京消防庁管内での設置率は横ばいです。

○委員 条例設置率という、きちんと付けているかというところで見ると、ちょっと下がってきているんですかね。結局、台所火災が危ないと思って、皆さん、台所には付けるのですけれども、寝室には付けていなくて、死者火災というのは居室火災なのですね。台所火災では、さすがに起きている時にしか。うたた寝はありますけれども。そういった視点では、死者を減らすというのは、きちんと居室に付けるということ、寝室ですね、これをやらなければいけないということですよ。

それと、先ほどの広報について。テレビというのはプッシュ型の広報の仕方、SNSなどはプル型といって、自分たちが好きな、必要な情報を引っ張ってくるというような分類をされるのですけれども。以前、ビーコンなどを使って、八重洲の地下街などを歩いていると、どこかのお店の広告がLINEに入ってくるのかな。そういうプッシュ型の広告のやり方もあるのかなと思って。それを電車の中に取り付けてもらうとかあるのかなと思って。それこそ、今、FIRE PREVENTION WEEKと下を書いてありましたけれども、そういう時期を捉えて、プッシュ型のテレビではない方法、若者にも届く、何かそういう方法も考えなければいけないのかなと思いました。広告みたいなやつだと、なかなか流しちゃうと思うのですけれども、入ってくるやつがありますよね。僕はわかっていないのですけれども。ご存知の方、いらっしゃいますか？ビーコンで電波を飛ばして、そこで何か……。近頃の電波で、こういう割引セールをやっているみたいな。何かそれに近いものをやったら、「何だ、これは」ということで押してくれるのかなと思いました。

あと、今日、お話を聞いていて、なるほどと思ったのは、火災のニュースに何か加える。火災のニュースを報道する時は、燃えている映像を流すだけではなくて、直接は初期消火をやっていないとか、住警器が付いていないとか、消火器がなかったということではないにしても、これが有効だという話を報道機関の方にはセットで流してもらったほうがいいのかなと。「警視庁、消防庁が出火原因を調査中です」などという話はどうでもよくて、火事にはこれだということをセットで流してもらような素材をつくってあげたほうが効果があるのかなと思いました。

雑駁ですけれども、私からは以上です。

○事務局 ありがとうございます。消防設備関係の情報もありがとうございます。ご質問のあった保険のところというのは、消火器具で消火をして汚損した部分についても保険の対象になるかといったことですか？火災保険の契約にもよると思いますし、要件などは会社さんによって違うと思いますので、火災があったら必ず119番をしていただいて、消防機関が行くと。焼損等があれば罹災証明書が出ますので、それによって、ご自身が加入されている会社さんに相談ということになるかと思うので、詳細のどこまで補償になるかというのは我々ではお答えできないところかなと思います。

その他にご意見をいただいた、住宅用火災警報器とセットでの広報というのも引き続きやっていかなければならないですし、数字もしっかりと毎年出して追っているところですので、今後も

そこをやっていきたいと思っております。以上です。

○委員 私どもは社会福祉協議会という団体で、地域の活動を推進したり、つながりづくりなどを日頃進めているところです。そう考えると、防災とか災害対策ということは非常に親和性の高いことだと捉えております。平時のつながりが有事の時につながると思っているところです。

一方で、今、孤独とか孤立ということが大変大きな課題になっているので、今、町会の方々が大変熱心に消防訓練、防災訓練とかをやってくださっていて、そういう機会に積極的に参加できている方というのは、日頃の地域の活動にも参加をしてくださっている方々が多いのだろうなと思います。一方で、お一人で暮らしている方は、そのような方ばかりではない中で、家いかに体験とか訓練をしてもらうかということが大事かと伺っていて思いました。

今回、消火器をいかに使って火を消すかという話だと思うので、経験がないと、何か起こってパニックになっている時に使うのは大変ハードルが高いと感じるので、日頃、なかなか訓練などに出てこない人たちも、気軽に消火器を使ってみることができるような機会、例えばショッピングセンターとかの一角で、遊び感覚で、水の入っている消火器などを使ってみることができるような場があって、訓練の日という年に1回とか2回の機会ではなくても、やってみることができるような場などがあつたらいいのではないかと考えたところです。

あとは、地域では、様々な活動をしている方々がいらっしゃって、居場所だったり、見守りの活動だったり、いろいろなことをやっていらっしゃるので、そういう活動の中にも、消火器を使ってみることを年に1回ぐらい入れてもらえるような働きかけをしていくようなことも有効なのではないかと思いました。以上です。

○事務局 ご意見ありがとうございます。福祉の方とか民生の方、高齢者とコンタクトを取っていくには、そういった部署、部門の方と密接に連携していかなければならないと思っておりますので、今後とも、ぜひ、よろしくお願いいたします。

あと、防災と関係のない場で、防災について触れ合える場所というのも貴重だと考えておりますので、その点も、今後、検討していきたいと思えます。以上です。

○委員 東京都は地域防災計画で初期消火対策の実施率を上げていこうということで、消火器の保有率をあげようという減災目標を上げて、今、自治体のほうで消火器を購入していく取り組みがあつた場合には、それに対して補助事業をしたり、そういった形でも支援をやっているところでございます。本日は、普及啓発のお話が多かつたのかなと思ひまして、普及啓発は防災部のほうでも、ほかの担当にも普及啓発の部門はあるのですが、お話を聞いていくと、どういったところに響いて、何が刺さるのかといったことが大切なのかなという形でも考えておりまして、今日は、政策企画局のご担当の方もいらっしゃっているところではあるのですが、東京消防庁さんとも連携を取りながら、普及啓発の部分、どういった取り組みができるのかというのは引き続き考えていかなければいけないのかなと思ひしているところでございます。雑駁ながら、以上ということで意見を述べさせていただきました。どうもありがとうございます。

○主宰者 ありがとうございます。引き続き、連携させていただければと思いますのでよろし

くお願いいたします。